

小郡市では、令和3年度から目指す子ども像を「夢や願いに向かって逞しく進み【自律】人とつながりあって心を働かせ【共想】喜びあふれる豊かな郷土をつくりだす【郷生】小郡の子どもたち」と設定し、「『たなばた 志』教育」を進め、子どもたちの「未来を拓く」力を育てています。

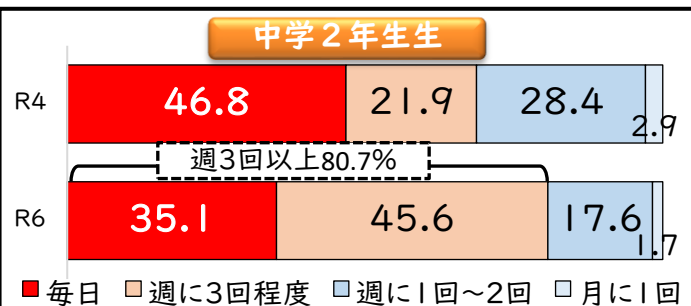
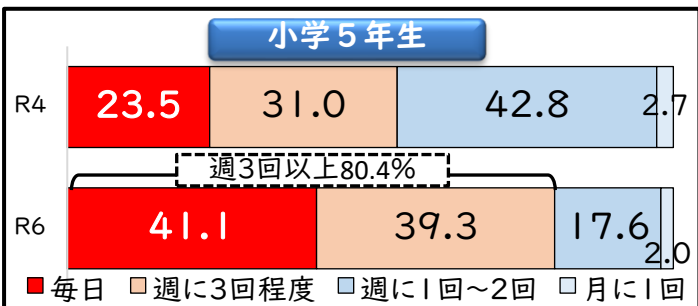
また、令和2年度末に配布された1人1台タブレット端末について、小郡市では、学校におけるタブレットの活用状況や学校現場における学習効果、タブレットの持ち帰りについての実態、児童生徒や保護者の関心などを中心に市内の教職員及び小学5年生・中学2年生とその保護者を対象にアンケート調査を行ってきました。

4年間の取組の結果、学校でのICTの日常的な活用が浸透してきています。今後は、活用の「広がり」から「質の高まり」を目指して、更に取組を進化させて参ります。

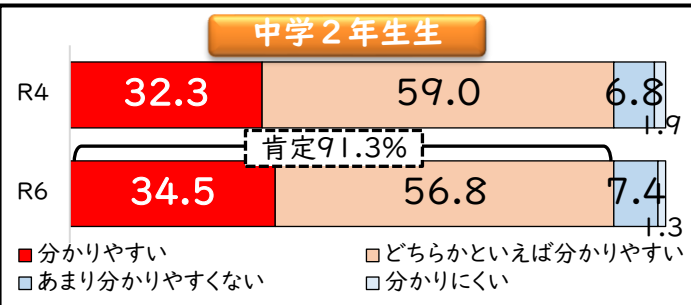
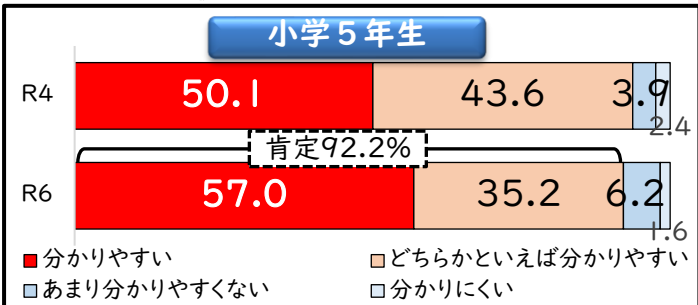
学校の授業での活用状況（児童生徒対象）

◆授業ではタブレットをどのくらい使っていますか（児童生徒対象）

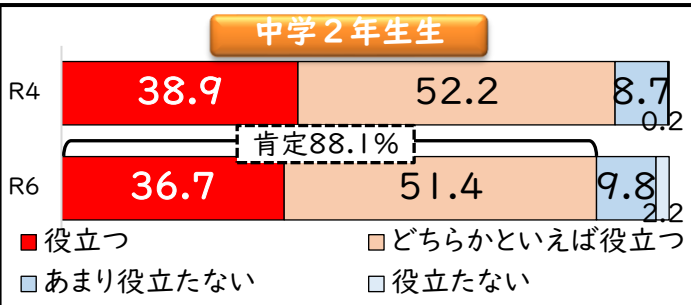
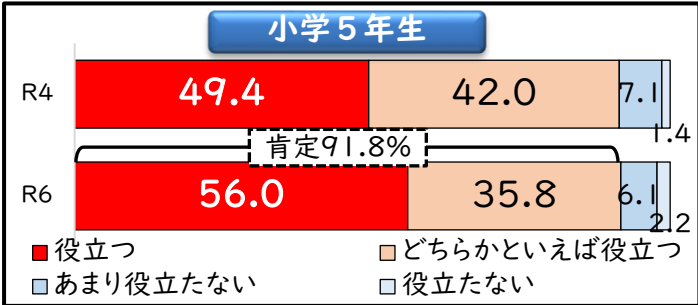
※数字は割合（％）



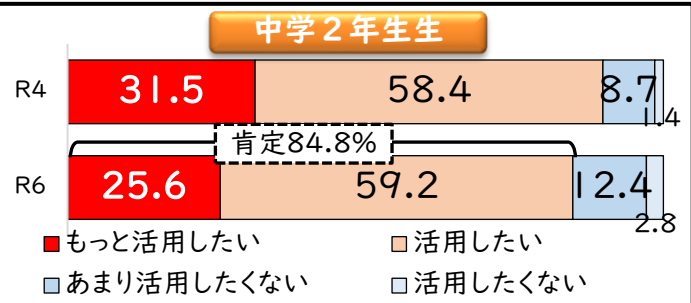
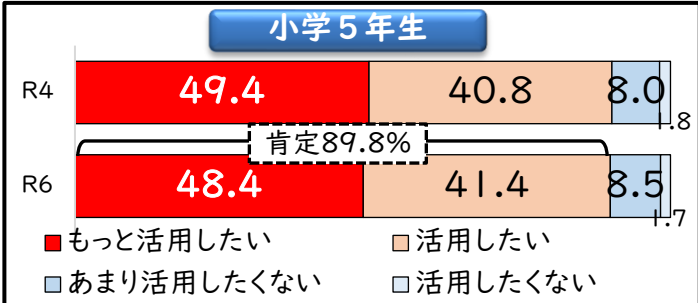
◆タブレットを使った学習は分かりやすいですか



◆授業でタブレットを使うことは、自分の考えをつくったり、考えを深めたりすることに役立つと思いますか。



◆これからもタブレットを活用したいですか。



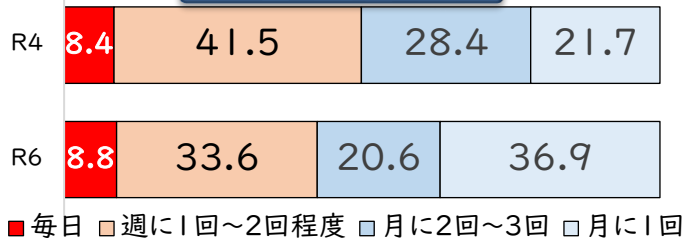
考察 小郡市全体で授業での活用頻度が上がり、効果的な活用が進んできています。また、タブレットを活用することで理解度が増したり、自分の考えをつくったり深めたりできると子ども達は有用感を感じています。

ICT活用に関するアンケート（保護者対象）

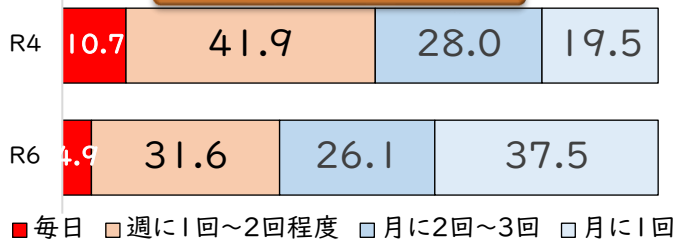
◆家で学校配布のタブレットをどのくらい使っていますか。

※数字は割合(%)

小学5年生（保護者）

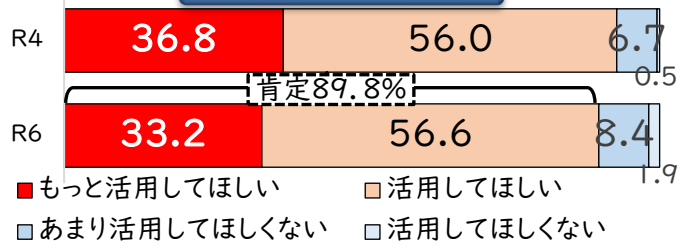


中学2年生（保護者）

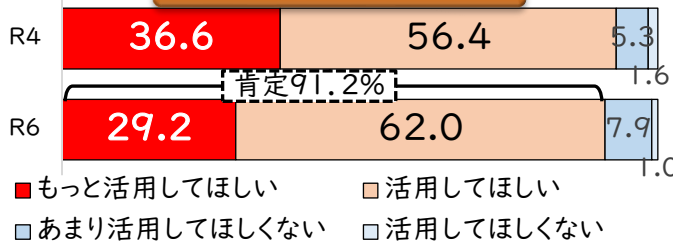


◆これからもタブレットの活用を進めてほしいと思いますか。

小学5年生（保護者）



中学2年生（保護者）



考察 タブレットを家に持ち帰って、子ども主体の活用を進めることが課題となっています。そのために、家庭と学校との連携を強め、調べ学習や予習・復習など、家庭での効果的な活用を進めていく必要があります。

タブレットを活用したい理由・(児童生徒)

- ・授業で使った資料が先生たちから送られてきてそれを見ながら復習ができるから。
- ・発表は苦手だけど、タブレットを使えば自分の考えを多くの人に見てもらえるから。
- ・英語のリスニングや発音練習にタブレットが活用できるから。
- ・毎時間行っているスタディーログ(学習履歴)が、テスト前の復習や自分の学びを深めることに活用できるから。



全体考察・今後の取組

【全体考察】

★「タブレットを使った授業は分かりやすい」「授業中にタブレットを使うことは、自分の考えをついたり深めたりすることに役に立つ」と感じている子どもが多く、「タブレット活用の効果」を感じていることが分かります。

★子どもたちも保護者もタブレットを今後も活用していきたいと感じており、健康面、情報モラル面に留意しながら、自分で考えて、使いたい時に使いたいものを自由に選択することが大切です。

【今後の取組】

○ICTの「活用差」が「学力差」につながることを防ぐよう、子どもたちが使いたい時に、使いたいものを自由に使い、自己調整しながら、学びを深めていく学習を充実させます。また、INPUTが中心の授業からOUTPUTを重視した発信型の授業への転換を図っていきます。

○市内の推進モデル校における公開授業の参観や、効果を上げている学校へ他校から学びに行くことができる小郡市教員一日留学体験研修を充実させ、学校間、教師間の活用格差の解消を図ります。

○今後は高校、大学等でもタイピングを含む基本的な操作スキルは大変重要であるため、小学校の早い段階から基本的な操作スキル(クリック、ドラック、スクロール、コピー&ペースト、音楽や動画の再生、録音、撮影、画像の編集タイピング等)を育成します。

○情報モラル教育について、市の基底カリキュラムを活用し、自分・人を傷つけることのない適切な活用態度を育む情報モラル教育の充実を図ります。また、授業参観等を通して、保護者啓発を行い、学校と家庭が連携して取り組みます。

具体的なICT活用例

【広報「おごおり」ICT教育特集】



ICT活用の取組状況と成果

【小郡市小学校標準学力調査の実施について】

